

福祉健康科学部門 (社会生活行動支援)

社会福祉・社会学分野

著 書

- 1 齊場三十四分担他：福祉用具の選定と相談技術（福祉用具プランナーテキスト）. 21-36, テクノエイド協会. 2006.
- 2 齊場三十四：障害者が地域で暮らす（自立）ためには一リハビリテーション. 11-15, 鉄道弘済会. 2006.
- 3 齊場三十四分担：バリアフリーマンション, 町で暮らす. 25-29, NHK 出版. 2006.

総 説

- 1 齊場三十四：地域で活躍するリハビリテーションの新課題. 21-28, 福岡地域リハビリテーション協議会誌. 2006.
- 2 齊場三十四：ノーマリゼーションと介護福祉士の役割. 8-10, 日本介護福祉士協会誌. 2006.
- 3 齊場三十四：鉄道とバリアフリー. 8月16日. 働く広場（雇用支援機構）. 2006.

学会発表

全国規模の学会

- 1 齊場三十四(シンポ)：住宅改造と高齢者福祉. 全国老人保健研究学会. 熊本. 2006, 11, 10. 学会誌.
- 2 齊場三十四 (シンポ)：障害ある人への差別がなくなる社会を目指して. 福祉エキスポ. 東京. 2006, 1, 7. JDA 誌.
- 3 齊場三十四(シンポ・記念講演)：ケアマネジメントと医療ソーシャルワーク. 日本ソーシャルワーカー全国研究学会. 福岡. 2006, 5, 13. 学会誌.

地方規模の学会

- 1 齊場三十四 (記念講演)：地域で活躍するリハビリテーションの新課題. 福岡地域リハ研究会. 福岡. 2006, 2, 3. 協議会誌.
- 2 齊場三十四 (記念講演・シンポ)：介護予防推進に向けてどう連携するか. 大分県地域リハ協議会. 大分. 2006, 11, 4. 協議会誌.
- 3 齊場三十四(シンポ)：バリアフリーデザインとユニバーサルデザインの関係と今後の方向性. 日本福祉町づくり学会. 熊本. 2006, 12, 16. 研究会誌.
- 4 齊場三十四 (記念講演・シンポ)：自立支援医療制度の現状と課題・患者障害者の命と生活を守る医療を求めて. 社会福祉研究会. 沖縄. 2006, 2, 24. 研究会誌.
- 5 齊場三十四 (記念講演・シンポ)：自立支援法とその課題. すみか. 佐賀. 2006, 6, 6. 法人誌.

認知神経心理学分野

学会発表

国際学会

- 1 Horikawa et al.: Falls and Subjective symptoms in community dwelling edlerly people, Gerontological Society of America 2006, 11, 16. The Gerontologist, Vol.46, pp449. 46 449 Dallas US
- 2 Koga A, Sato K, Horikawa E: Regimen and metabolic control with dropout of diabetes mellitus from treatment programs. The 9th East Asian Forum of Nursing Scholars 2006, 3, 31. Bangkok
- 3 Nakamura T, Ino-oka E, Noto M, Kobayashi H, & Horikawa E: Daily living behavior and electrocardiograms of elderly with dementia in group living, Gerontological Society of America 2006, 11, 17. The Gerontologist, Vol.46, pp449. 46 90 Dallas US

全国規模の学会

- 1 堀川悦夫, 森園 亮, 床島絵美, 酒井 誠: 易転倒性に及ぼす転倒恐怖感の影響—地域在住高齢者を対象として— 日本心理学会 2006, 9, 15 日本心理学会発表論文集 1380
- 2 森園 亮, 堀川悦夫, 酒井 誠: 易転倒性にもとづく高齢者の転倒リスクの解析—転倒恐怖感の及ぼす影響— 日本福祉心理学会第4回大会 2006, 7, 15
- 3 床島絵美, 堀川悦夫: 地域在住高齢者の介護サービスに関する理解—質問紙調査にもとづく分析— 日本認知症ケア学会 2006 発表論文集

地方規模の学会

- 1 堀川悦夫, 森園 亮, 中村眞須美, 大屋友紀子, 床島絵美, 村久木洋一, 田畑絵美, 村田知之, 宮副雅大, 土屋真一, 藤原映美, 中村京子, 五十嵐雄道, 高野陽子, 森田博文, 森永久美子, 松尾清美, 齊場三十四: 易転倒性と転倒恐怖感の関連について—地域在住高齢者を対象として— 第6回日本福祉のまちづくり学会九州支部熊本大会 2006, 12, 16. 第6回日本福祉のまちづくり学会九州支部熊本大会研究発表論文集: 11-14.
- 2 松尾清美, 村田知之, 齊場三十四, 堀川悦夫: 通気性と耐圧分散を考慮した車いす用クッションの試作 第46回佐賀リハビリテーション研究会 2006, 4, 9
- 3 宮副雅大, 杉 剛直, 後藤 聡, 中村雅俊, 堀川悦夫, 松尾清美, 齊場三十四: 身体動揺システムを用いた易転倒性の評価法 計測自動制御学会九州支部大会 2006, 12 計測自動制御学会九州支部大会予稿集, 2006, 12.
- 4 村田知之, 松尾清美, 齊場三十四, 堀川悦夫: デンマークにおける身体障害者用トイレについて 第46回佐賀リハビリテーション研究会 2006, 4, 9
- 5 村久木洋一, 床島絵美, 大屋友紀子, 木室ゆかり, 森園 亮, 中村眞須美, 村田知之, 田畑絵美, 藤原映美, 中村京子, 藤渡美由紀, 小部亜希, 松尾清美, 齊場三十四, 堀川悦夫: 母子保健調査に基づく子育て支援のあり方に関する研究 第6回日本福祉のまちづくり学会九州支部熊本大会 2006, 12, 16 第6回日本福祉のまちづくり学会九州支部熊本大会研究発表論文集: 11-14.

その他の学会

- 1 CFK カンファレンス 階段昇降時の身体動揺 2006, 3, 24

研究助成等

職名	氏名	補助金(研究助成)等の名称	種目	研究課題等	交付金額 (千円)
教授	堀川 悦夫	文科省教育改革経費		高齢者・障害者(児)の生活行動支援に関する学部間連携教育システムの開発	66836
教授	堀川 悦夫	平成18年度文部科学省科学研究費	基盤研究(B)	認知課題遂行の歩行への影響を指標とした高齢者易転倒性検査システムの開発	800

リハビリテーション工学分野

著書

- *市川 冽, 松尾清美, 鹿島 守, 他: 福祉用具支援論—自分らしい生活をつくるために—, 共同執筆, 財団法人テクノエイド協会, 2006.
- 松尾清美: 褥創の予防・再燃を考えた生活環境—リハビリテーション工学の視点を中心に, CLINICAL REHABILITATION Vol.15 No.6 p532-p539, 2006.
- 松尾清美: 実践報告—地域資源を利用した福祉用具供給システム, 特集: 支え合うまちづくり, 地域リハビリテーション, Vol.15 No.8 655-660, 2006.
- 理学療法学辞典, (監修) 奈良 勲, (編集) 内山 靖, 用語解説, 2006.
- 松尾清美: 3. 福祉機器の開発, リハビリテーション工学と福祉機器, リハビリテーションMOOK No.15, p19-p27. 2006.

学術論文

- 松尾清美, 村田知之, 吉田勇一, 他: 容易に前受け姿勢になれるティルティング車いすの開発, 第22回日本義肢装具学会学術大会講演集, 22巻特別号, 186-187, 2006年10月.
- 村田知之, 松尾清美, 古賀賢紀, 小川意房: 圧分散性と通気性を両立させた車いす用クッションの試作, 第22回日本義肢装具学会学術大会講演集, 22巻特別号, 188-189, 2006年10月.
- 松尾清美, 村田知之, 吉田勇一, 他: 前かがみ姿勢を容易にとれる小児用車いすの開発, 第21回リハ工学カンファレンス講演論文集, p309-p310, 2006.
- 松尾清美, 村田知之, 古賀賢紀, 小川意房: 通気性と体圧分散を考慮した車いす用クッションとベッドマットの試作, 第21回リハ工学カンファレンス講演論文集, p311-p312, 2006.
- *古賀賢紀, 松尾清美: 介護保険における住宅改修の現状と課題—手すり工事の経験から—, 第21回リハ工学カンファレンス講演論文集, p195-p196, 2006.
- °北村奈美, 松尾清美, 村田知之: 福祉用具と自立(律)の関連性について—介護保険における車いす貸与の実態調査と文献より—, 第21回リハ工学カンファレンス講演論文集, p279-p280, 2006.
- 村田知之, 松尾清美, 斉場三十四, 他: 多目的トイレの扉とその周囲についての研究(その2)—引き戸と開き戸及びその周囲の特性—, 第21回リハ工学カンファレンス講演論文集, p53-p54, 2006.

学会発表

- °浅見豊子, 松尾清美, 野田直幸, 他: 大学病院の地域リハビリテーションへの関わり—当院の車椅子生活支援システム構築後の現状を通して—, 第43回日本リハビリテーション医学会, 東京, 2006

年6月.

- 2 松尾清美, 村田知之, 吉田勇一, 他: 容易に前受け姿勢になれるティルティング車いすの開発, 第22回日本義肢装具学会学術大会, 熊本, 2006年10月.
- 3 村田知之, 松尾清美, 古賀賢紀, 小川意房: 圧分散性と通気性を両立させた車いす用クッションの試作, 第22回日本義肢装具学会学術大会, 熊本, 2006年10月.
- 4 松尾清美, 村田知之, 吉田勇一, 他: 前かがみ姿勢を容易にとれる小児用車いすの開発, 第21回リハ工学カンファレンス, 神戸, 2006年8月
- 5 松尾清美, 村田知之, 古賀賢紀, 小川意房: 通気性と体圧分散を考慮した車いす用クッションとベッドマットの試作, 第21回リハ工学カンファレンス, 神戸, 2006年8月
- 6 *古賀賢紀, 松尾清美: 介護保険における住宅改修の現状と課題~手すり工事の経験から~, 第21回リハ工学カンファレンス, 神戸, 2006年8月
- 7 °北村奈美, 松尾清美, 村田知之: 福祉用具と自立(律)の関連性について一介護保険における車いす貸与の実態調査と文献より一, 第21回リハ工学カンファレンス, 神戸, 2006年8月
- 8 村田知之, 松尾清美, 齊場三十四, 堀川悦夫: 多目的トイレの扉とその周囲についての研究(その2)引き戸と開き戸及びその周囲の特性, 第21回リハ工学カンファレンス, 神戸, 2006年8月

研究助成等

独立行政法人 科学技術振興機構

平成18年度研究成果活用プラザ福岡・可能性試験(FS)の研究

課題: 発達障害児の2次障害予防と発育促進のための姿勢保持・姿勢変換一体型装置の開発と実用化可能性評価

目的: 発達障害児の2次障害予防と発育促進のための姿勢保持・姿勢変換一体型装置の汎用化のための実用化研究

内容: (1) 脚部, 臀部, 背部, 頭部毎に, 本人の姿勢に合わせて適合できる姿勢保持機能を有していること。および通気性をかね合わせること。

(2) 姿勢変換を自分の力では行うことのできない児をリクライニングからティルト姿勢, そして前受け姿勢までを安全にできる姿勢変換装置

研究費: 総額1,300千円